

② 一般会計は市の予算の中心 最も大きな「おさいふ」です

収入と支出のことを市の財政では「歳入・歳出」と呼びます。より良い地域社会を実現するため、市民が納める税金などのお金をあらかじめ使い道を決め計画的に役立てる、それが予算です。
なかでも一般会計予算は最も金額が大きく、幅広い分野を含んだものです。

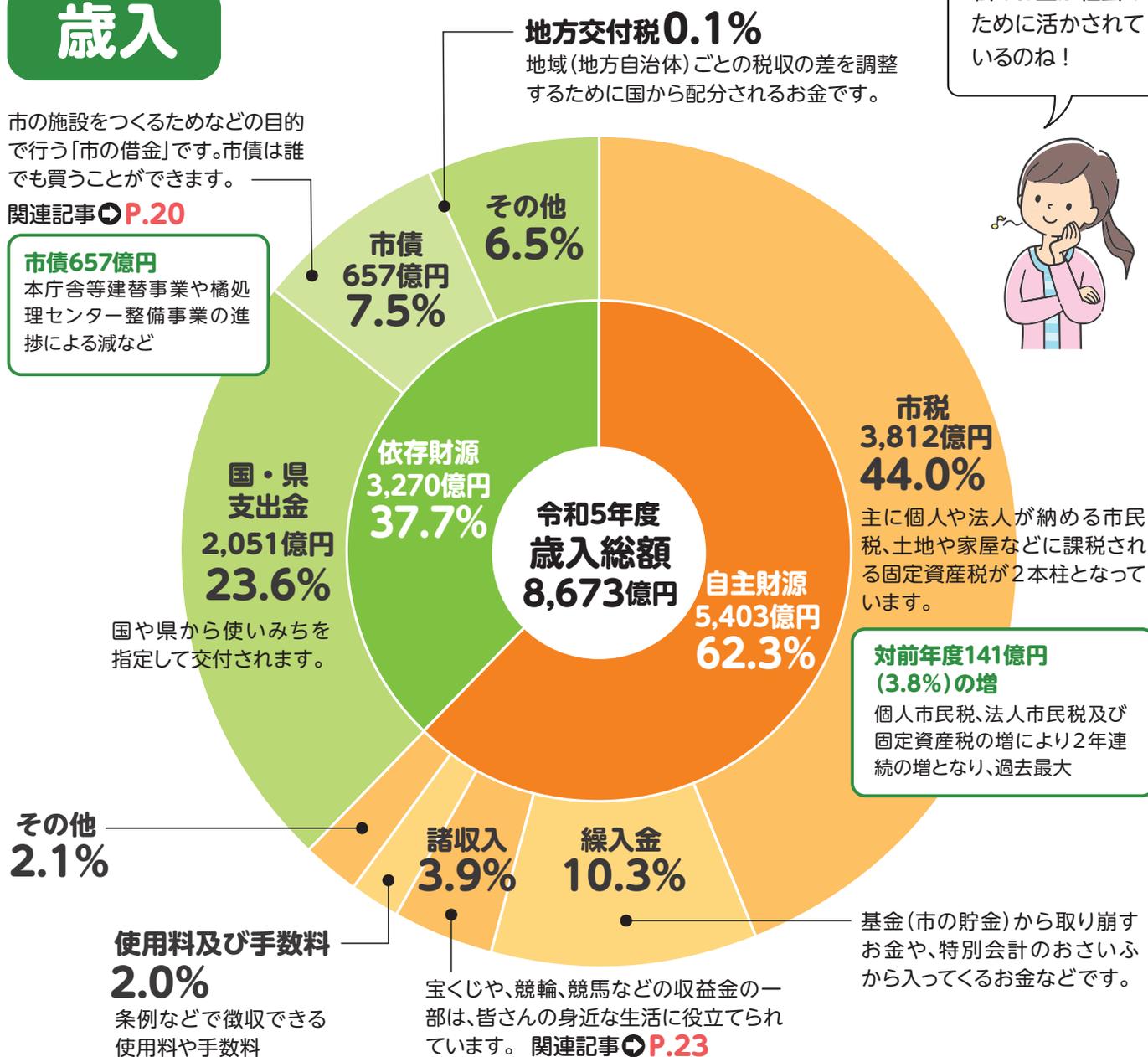
歳入

市の施設をつくるためなどの目的で行う「市の借金」です。市債は誰でも買うことができます。

関連記事 **P.20**

市債657億円

本庁舎等建替事業や橋処理センター整備事業の進捗による減など



私のお金が社会のために活かされているのね!



ことばの解説

自主財源と依存財源

「自主財源」は市が自主的に集めることのできるお金。この割合が高いほど自主的な運営がしやすくなると考えられます。一方「依存財源」は国や県の考え方を反映させ、決まった額を受け取るお金のことです。

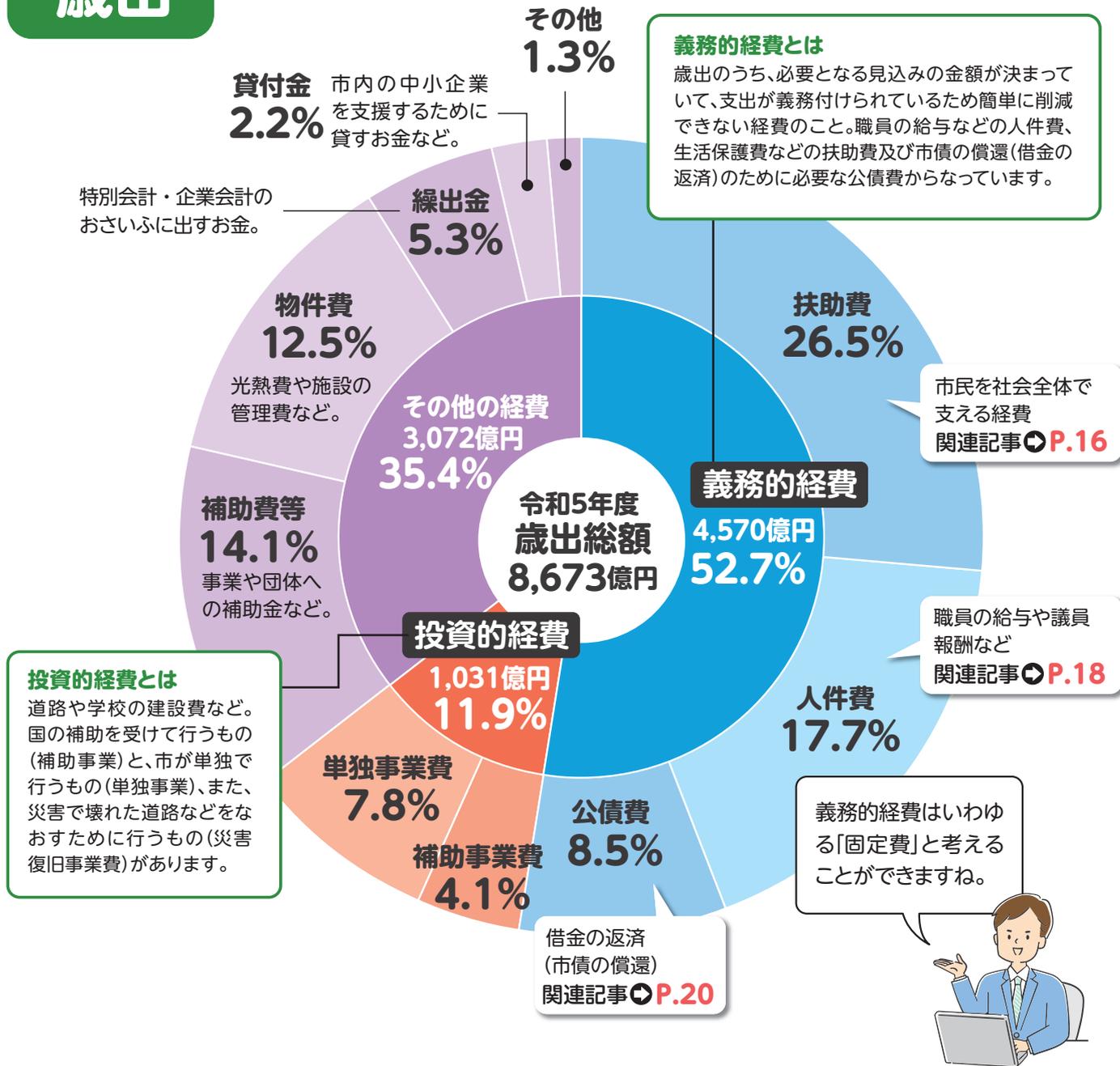
令和5年度 一般会計予算

POINT

予算規模8,673億円は、
対前年度112億円(1.3%)の減で前年度
比較で11年ぶりの減

過去の減債基金借入金(721億円)を除いた場
合7,952億円(対前年度177億円(2.2%)の減)

歳出



投資的経費とは

道路や学校の建設費など。国の補助を受けて行うもの(補助事業)と、市が単独で行うもの(単独事業)、また、災害で壊れた道路などをなおすために行うもの(災害復旧事業費)があります。

義務的経費とは

歳出のうち、必要となる見込みの金額が決まっています。支出が義務付けられているため簡単に削減できない経費のこと。職員の給与などの人件費、生活保護費などの扶助費及び市債の償還(借金の返済)のために必要な公債費からなっています。

減債基金*新規借入金120億円

厳しい財政状況においても、「最幸のまち かわさき」の実現に向けた取組を切れ目なく推進します。24年度決算からの借入総額は841億円となっています。*市債の償還財源を確保し、財政の健全な運営に資するための資金を積み立てることを目的に設置された基金です。

減債基金借入金の返済について

減債基金借入金については、将来の市債償還に支障を及ぼすことがない範囲で行っていますが、借入はあくまでも臨時的な対応であり、早期の解消が必要であることから、市民サービスの安定的な提供と、財政状況のバランスに配慮しながら、可能な限り早期の返済に努めます。 関連記事▶P.22

POINT